

# SINGER®

使用の手びき

プリュムー  
**PLUMEUX**

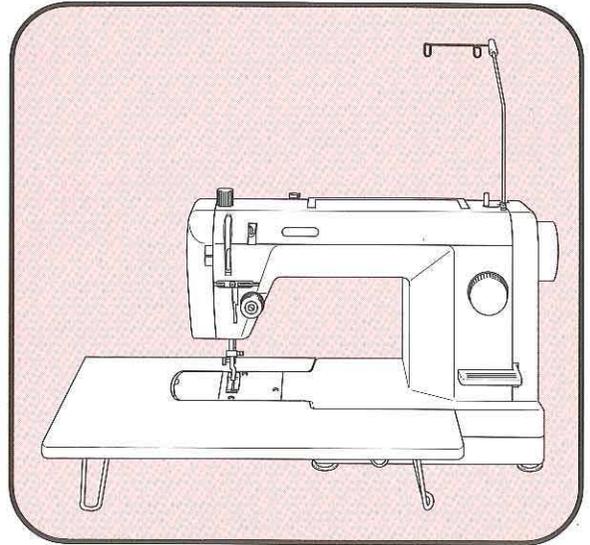
型式

103

UTT

103

Super UTT



このたびは、シンガーミシンをお買いあげいただき  
まことにありがとうございました。

このミシンを安全にお使いいただくため、この「使  
用の手びき」をご使用前に必ずお読みください。

なお、お読みになった後は、お使いになる方がいつ  
でも見られるところに必ず保管してください。

万一、ご使用中にわからないことや具合の悪いこと  
がおきたとき、きっとお役に立ちます。

## 安全にお使いいただくために

このミシンを、安全にご使用いただくために、以下のことがらを必ず守ってください。

このミシンは、日本国内向けです。

FOR USE IN JAPAN ONLY

### ⚠ 警告

感電、火災の恐れがあります

1. 一般家庭用交流電源100Vでご使用ください。
2. 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いてください。
  - ・ ミシンのそばを離れるとき。
  - ・ ミシンを使用したあと。
  - ・ ミシン使用中に停電したとき。

### ⚠ 注意

感電、火災、ケガの原因となることがあります

1. コントローラーの上に物をのせないでください。
2. お客様自身での分解、改造はしないでください。
3. ミシンの操作時は、すべり板、面板などのカバー類を閉じてください。
4. ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、はずみ車、天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。
5. 曲がった針は、ご使用にならないでください。
6. 縫製中に無理に布を引っ張ったり、押したりしないでください。
7. お子様のご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してください。
8. 以下のことをするときは、電源スイッチを切ってください。
  - ・ 針、針板、押え、アタッチメントを交換するとき。
  - ・ ランプを交換するとき。(ランプが冷えてから行ってください)
  - ・ 使用の手びきに記載のあるミシンのお手入れを行うとき。
  - ・ 原則として、上糸、下糸を交換するとき。
9. ミシン・コントローラーに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、ご購入店、または各地区「お客様相談係」にご連絡の上、点検・修理・調整をお受けください。
  - ・ 正常に作動しないとき。
  - ・ 落下などにより破損したとき。
  - ・ 水に濡れたとき。
  - ・ 電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
  - ・ 異常な臭い、音がするとき。
10. ミシンは安定した平らなテーブルや机の上でご使用ください。

# 仕様

項目	仕様	項目	仕様
縫い速度 (最大)	1,300 針 / 分	ミシンの大きさ	幅 438mm × 奥行き 174mm × 高さ 316 mm
縫い目長さ	0 ~ 6 mm	ミシンの重さ	11.0kg(UTT)/11.5 kg(SuperUTT)
針棒ストローク	30.5 mm	定格電圧、周波数	100 V, 50 / 60 Hz
押え上がり量	8 mm, "ひざ上げレバー"使用のとき11 mm	消費電力	75W
使用針	シンガー-Cat. No. 1515-01, #18 ~ #8	ランプ定格	100V, 15W

## ミシンの取り扱い

- シンナーやベンジンなどでふかないでください。
- 汚れたら、やわらかい布に中性洗剤を少し含ませて、よくふき取ってください。
- 直射日光にあてたり、高温多湿のところには置かないでください。
- 低温の場所から出したときは、普通の温度になじむまで、しばらく置いてください。時間が立てば正常に作動するようになります。
- 保管は、なるべく寒いところをさけてください。

## プリューム 103

今から 140 年前、シンガー社の創始者アイザック・メリット・シンガーがこの世に実用的なミシンを送り出して以来、シンガーマシンは家庭用、職業用、工業用それぞれの分野で数々の名器を製造、販売してまいりました。なかでもテーラー、洋裁店、洋裁学校等プロフェッショナルなかがたの間で“シンガー 103”は職業用ミシンの代名詞でありました。

この名器“シンガー 103”を 20 世紀のハイテクノロジーを駆使して、使いやすくポータブルで、よりプロフェッショナルにいたしましたのがこの「プリューム 103 型」です。

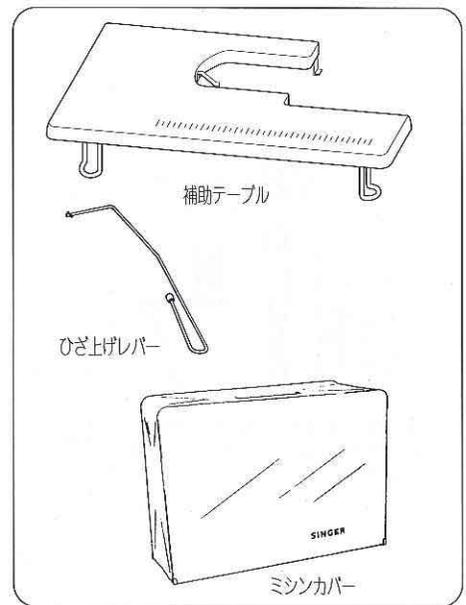
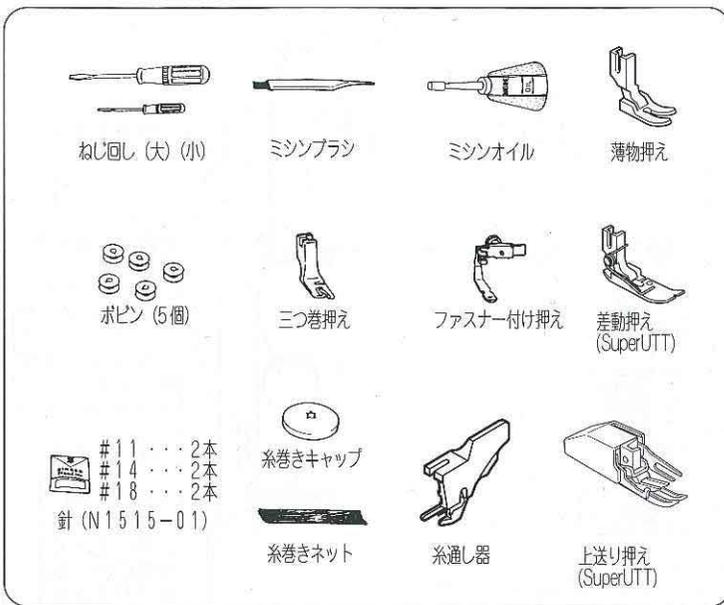
このミシンの特徴をご理解いただき、正しくお使いいただくために、この説明書をよくお読みください。

### 目次

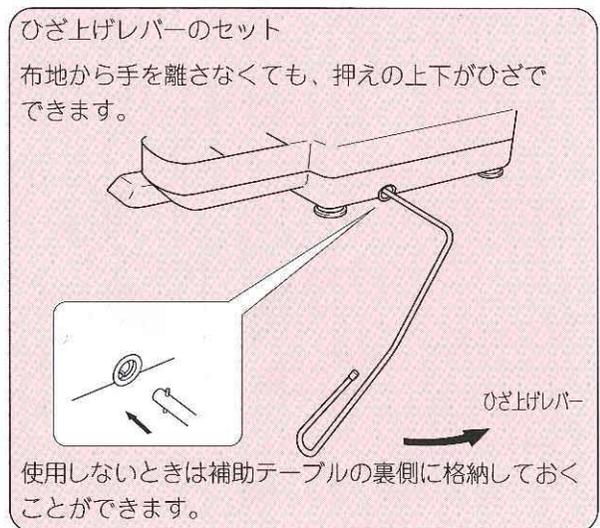
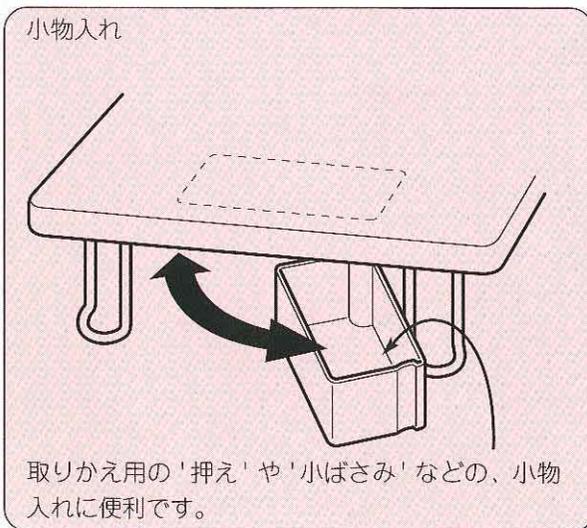
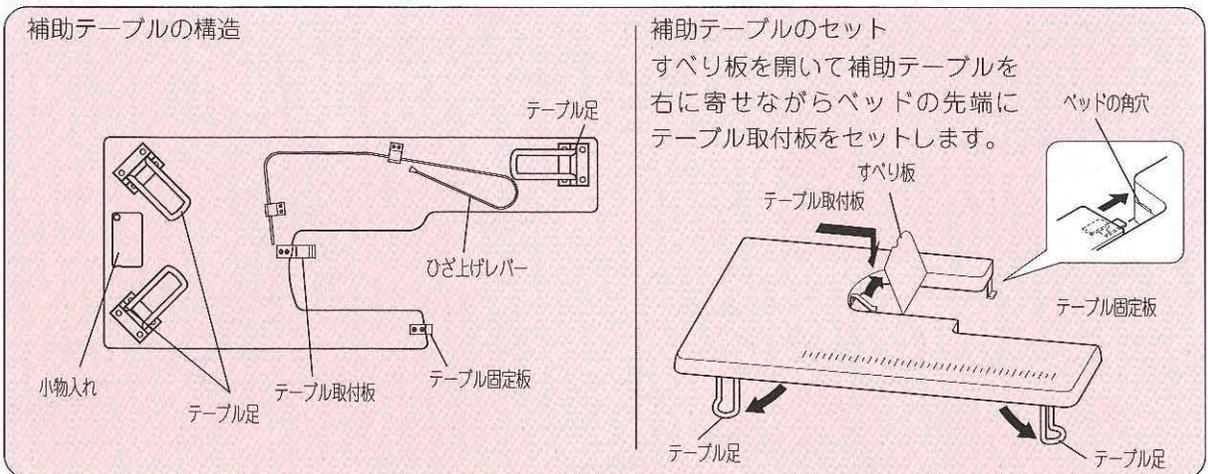
付属品	2	針と糸と布地の関係	10
補助テーブルとひざ上げレバーの取り付け方	2	押えの比較	10
各部のなまえとはたらき	3	針の取りかえ方	11
縫う準備	4	正しい針の調べ方	
電源のつなぎ方とコントローラーのセット		糸通し器の使い方	11
下糸の準備	5	いろいろな縫い方	12
糸案内棒と糸巻き		三つ巻き縫い	
下糸巻き		ファスナーつけ	
ボビンケースのセット	6	フリーアーム縫い	
ボビンのセット		差動送り縫い(Super UTT)	13
ボビンケースのセット		ストレッチ縫い	
糸調子	6	ギャザリング	
正しい上糸調子		いせ込み縫い	
上糸調子の取り方		上送り押えの使い方	
下糸調子の取り方		ミシンのお手入れ	15
上糸の準備	7	かまと送り歯の掃除	
上糸のかけ方		注油	
下糸の引き上げ方		ランプの交換	15
縫い方(1) 自動糸切りを使用しないとき	8	こんなときには	16
縫い始め		シンガー純正部品のご案内	17
縫い終り		シンガー職業用ミシン純正部品のご購入方法	19
止め縫い		修理サービス要領	20
縫い方向を変えるとき		お問い合わせまたはご相談先	裏表紙
縫い方(2) 自動糸切りを使用したとき	9		
縫い始め			
縫い終り			
自動糸切り後の縫い始め			
糸が切れなかったとき			

シンガーは皆様に常に最新の裁縫性能を提供するために、必要に応じてこのミシンの外観デザインまたは、付属品を変更することがあります。

# 付属品



## 補助テーブルとひざ上げレバーの取り付け方



# 各部のなまえとはたらき

押え圧力表示板  
押え圧力つまみ

押え圧力表示板の表示を参考に  
して押え圧力つまみを回し調節  
します。

糸切りスイッチ  
送り調節ダイヤル  
縫い終りにスイッチを押  
すと、上糸、下糸が自動で  
切れます。

送り目の長さを変  
えるときに動かし  
ます。

差動送り表示窓  
(SuperUTT)  
差動送りダイヤル  
でストレッチ  
やギャザーを選  
択します。

返し縫いレバー  
いっぱい押し  
下げてくださ  
い。押し下げ  
ている間だけ、返  
し縫いができま  
す。

糸かけ上  
押え圧力つまみ  
ランプ  
(内蔵)  
糸切り  
すべり板  
針板ガイドライン  
ひざ上げレバーセット穴

アーム糸かけ  
糸取りばね  
糸調子ダイヤル  
糸調子板

糸かけ下  
針止め  
針止めねじ  
針棒糸かけ  
針  
針板  
針板  
針板  
止めねじ  
(3カ所)  
送り歯  
すべり板  
押え  
押え止め  
ねじ

糸かけ  
糸案内棒  
下糸巻き装置  
糸巻きホルダー  
糸立て棒  
下糸巻き案内  
はずみ車  
差動送りダイヤル  
(SuperUTT)  
電源スイッチ  
コントローラ  
接続穴  
電源プラグ  
ライトスイッチ  
押え上げ  
押え棒

(イラストはSuperUTTです)

# 縫う準備

## 電源のつなぎ方とコントローラーのセット

### ⚠ 注意

感電、ケガ防止のために

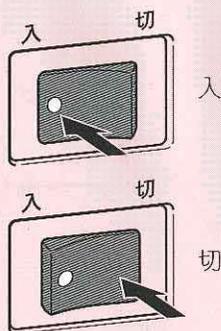
- ミシンのコントローラー接続穴にコントローラープラグを接続するとき、および、電源プラグをコンセントに差し込むときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
- コントローラープラグの接続穴にピンや針金などの異物を差し込まないでください。感電や、異常動作してケガをする恐れがあります。
- コントローラーの上に物をのせないでください。
- ミシンを使用しないときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから外してください。

2

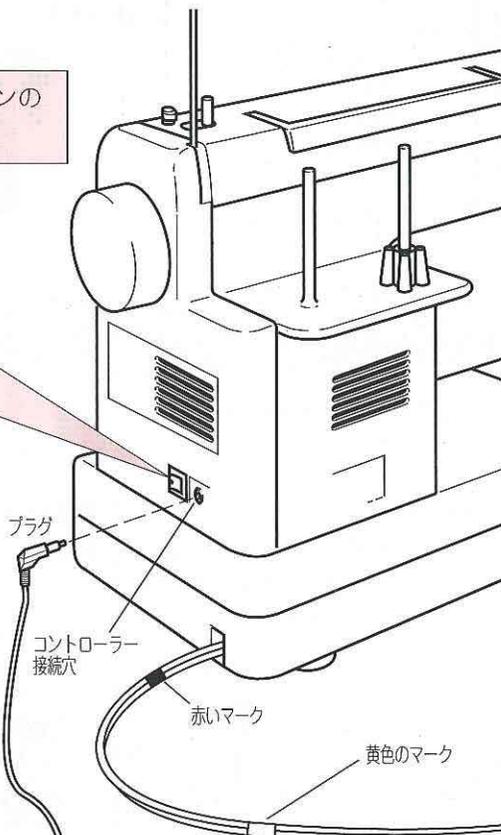
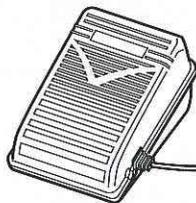
コントローラープラグをミシンの接続穴に差し込みます。

3

電源スイッチを入れます。



コントローラー



1

電源コードを引き出し、プラグをコンセントに差し込みます。

コードをしまうときは、コードを少し引き出して、はなしてください。

### ⚠ 警告

感電、火災を防ぐために

コードを引き出し過ぎると、断線の恐れがありますので、赤いマーク以上引き出さないでください。黄色のマークが出たら、まもなく赤いマークです。

※コントローラーは、必ずプレミアム103専用のコントローラーをご使用ください。

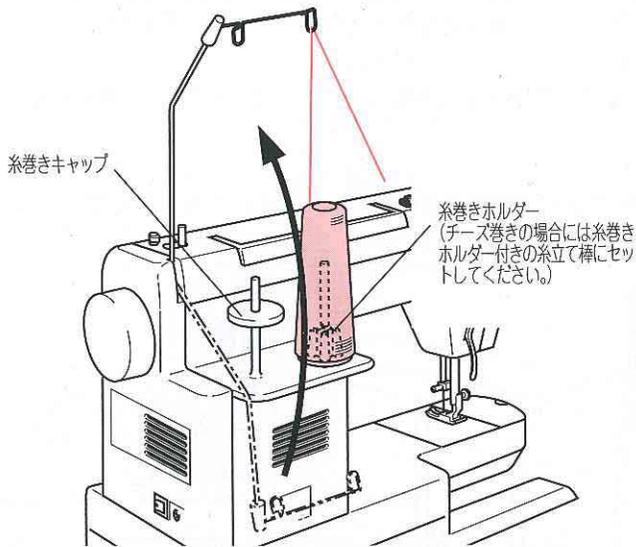
コントローラーの踏み方

- 軽く踏み込むとミシンが動きはじめます。
- 踏み込むほどスピードが速くなり、コントローラーから足を離すとミシンがストップします。

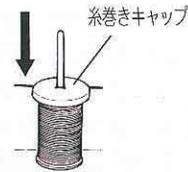
# 下糸の準備

## 糸案内棒と糸巻きのセット

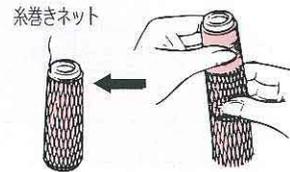
- ・糸案内棒を起し、糸立棒に糸巻きを入れます。
- ・糸案内棒の糸かけに糸を通します。



糸巻きキャップ  
こま巻き糸の場合に使用します。



糸巻きネット  
化繊糸などの巻きが崩れやすい糸の場合に使用します。



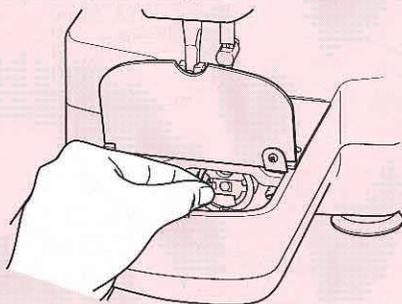
### ⚠ 注意

ケガ防止のために

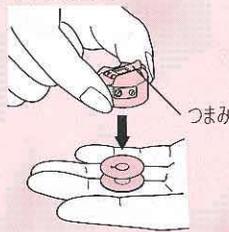
ポピンケースの出し入れは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

### 下糸巻き

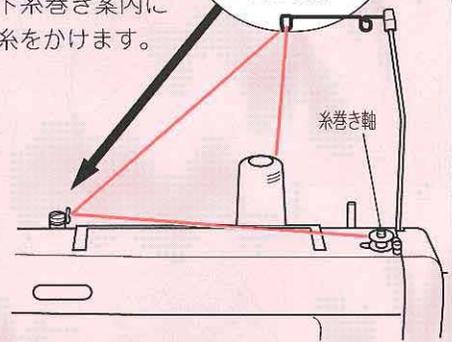
針を上げ、すべり板をあけ、ポピンケースのつまみを持って取り出します。 ※ポピンケースのつまみを閉じるとポピンが取り出せます。



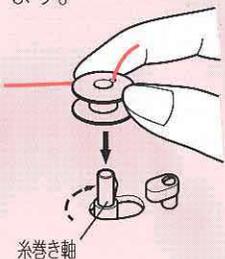
つまみ



下糸巻き案内に糸をかけます。



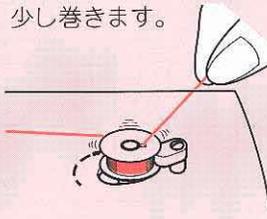
ポピンの切り欠きに糸を通し、糸巻き軸にポピンをセットします。



ポピンをポピン押えに押しつけます。



糸はしを持ったままコントローラーを踏み込んで少し巻きます。



いったん止めて糸はしを切り、もう一度スタートします。

巻き終わるとポピンの回転は止まります。コントローラーから足を離しミシンを止めます。



糸を切り、糸巻き軸を戻してからポピンをはずします。

# ポビンケースのセット

**△注意** ケガ防止のために

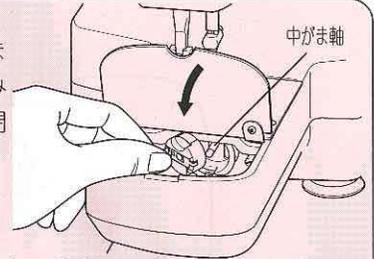
ポビンケースの出し入れは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

## ポビンのセット

ポビンケースのつまみを閉じ、ポビンの糸が右巻きになるように入れます。切りみぞに糸を滑らせ、調子ばねの下をくぐらせ、糸はしを約 10cm 引き出しておきます。

## ポビンケースのセット

つまみを持って、かま軸に差し込み、つまみを閉じ、すべり板を閉めます。

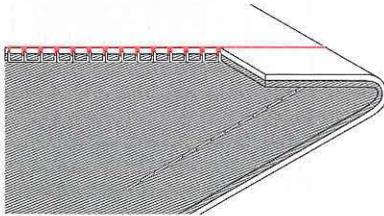


確実に中がま軸にさし込まれていないと、始動とともにポビンケースが飛び出てきます。

**糸調子** 上糸と下糸の糸調子が正しく調節されていないと布地にしわが寄ったり、糸が切れたりしますので、ご注意ください。

## 正しい糸調子

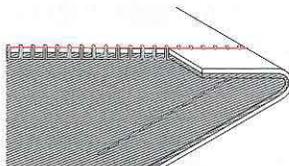
上糸と下糸が布地のほぼ中央で結び目を作ります。



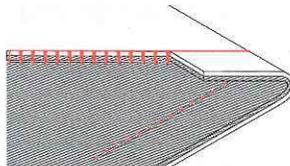
## 上糸調子の取り方

下糸が表側に出ているとき

上糸が裏側に出ているとき



“左” の方向に回します。

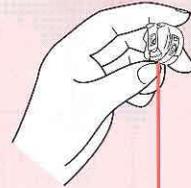


“右” の方向に回します。

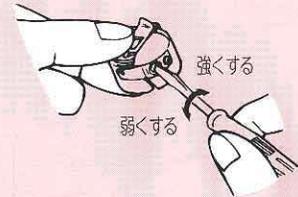


## 下糸調子の取り方

調節の目安は、ポビンケースに絹糸 (#50) を巻いたポビンをセットし、下図のように持ち、糸がなめらかに出る程度に調節します。



約 10g (5円硬貨 2枚程度)



# 上糸の準備

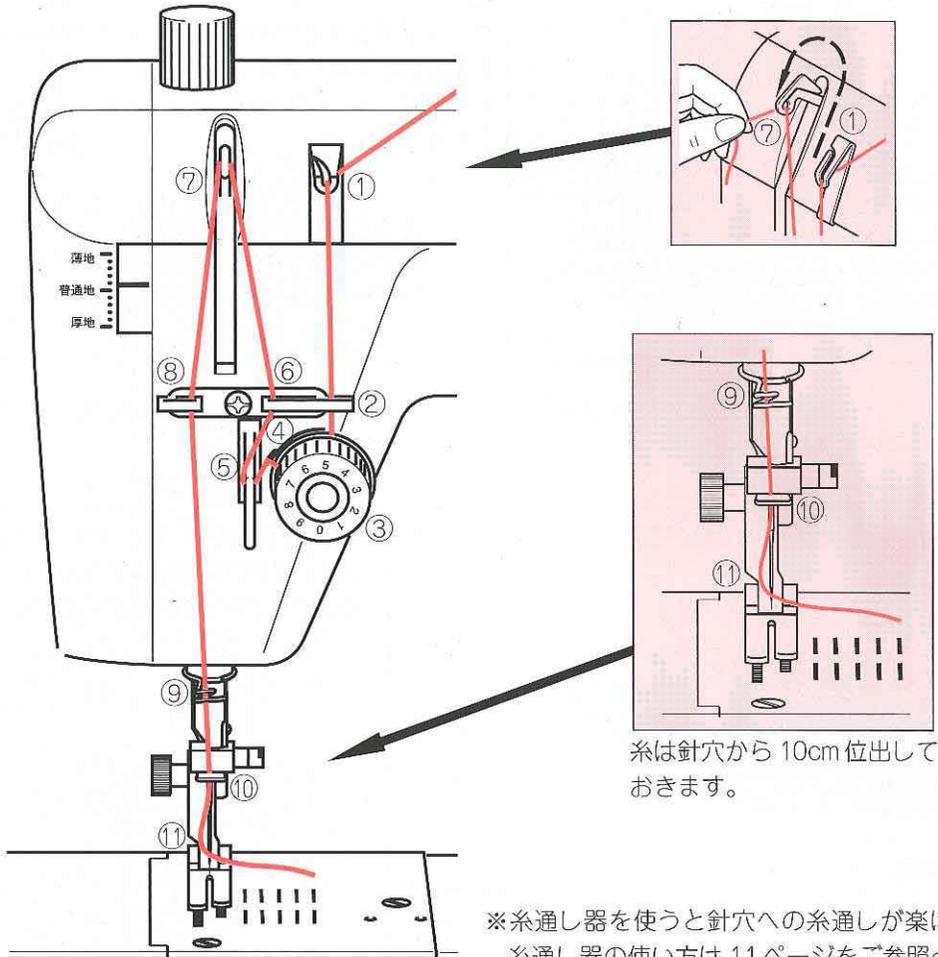
**注意**

ケガ防止のために

上糸をかけるときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

## 上糸のかけ方

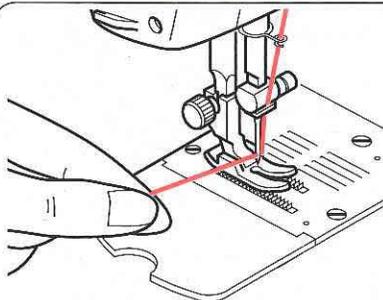
上糸をかけるときは、押えを上げ、天びんは一番上まで上げておきます。  
糸案内棒から糸を引き出し、①～⑪の番号順に正しくかけてください。



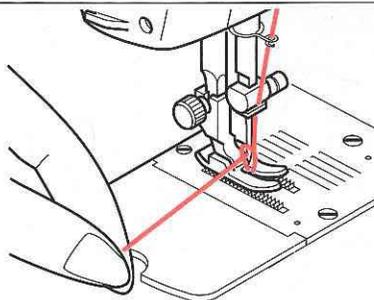
(イラストはUTTです)

※あやまった糸かけをしますと、きれいに縫うことができませんのでご注意ください。

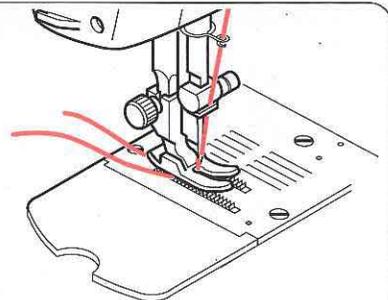
## 下糸の引き上げ方



1. 上糸のはしを左手でかるく持ち、はずみ車を手前に回し、針と天びんを上に出します。



2. 上糸を引き上げれば、下糸はついて出てきます。

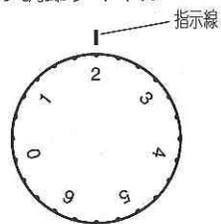


3. 上糸と下糸をそろえて押えの下から向こう側へ 15cm ほど引き出しておきます。

# 縫い方(1) 自動糸切りを使用しないとき

- ・ 試し縫いをする場合は、ご使用になる布を2枚重ねで行ってください。
- ・ 送り調節ダイヤルを希望する送り目の長さに合わせます。

送り調節ダイヤル

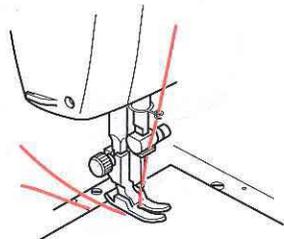


## ⚠ 注意

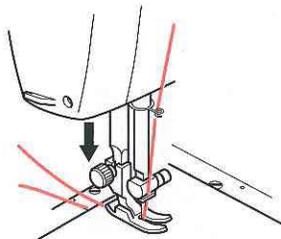
ケガ防止のために

縫っているときには、無理に布を引っ張ったり、押しすぎないでください。

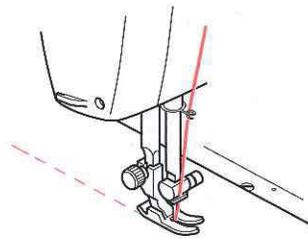
### 縫い始め



上糸と下糸を15cmほど引き出し、針を上げたまま布地を押えの下におきます。

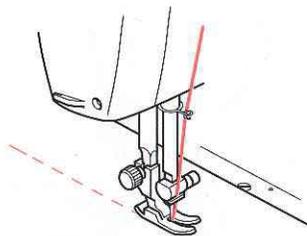


針を布地にさし、押えを下げ、コントローラーを軽く踏み、縫い始めます。

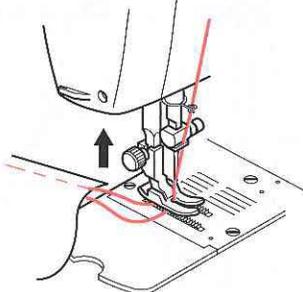


縫っている間は、手で布地を無理に引かないように、ガイドしながら縫います。

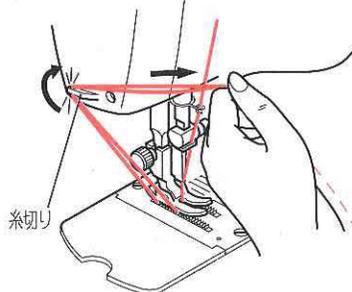
### 縫い終り



縫い終わってコントローラーから足を離すとミシンは、針が下がった位置で止まります。



縫い終わったらはずみ車を手前に回し針を上げ、押えを上げて布地を後側に引き出します。



引き出した糸を糸切りにかけて切ります。

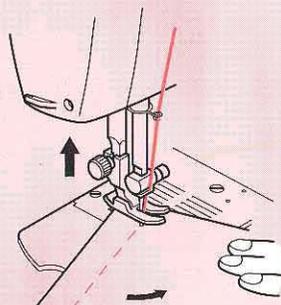
### 止め縫い (縫い方(1)(2)共通)

縫い始めや縫い終りに止め縫いをすると縫い目がほつれません。



布はしから約1cmの位置で返し縫いレバーを押して縫い目の上を縫い返します。

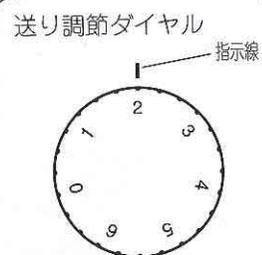
### 縫い方向を変えるとき (縫い方(1)(2)共通)



針を布地に刺したまま押えを上げ、針を中心に布地を回します。

## 縫い方(2) 自動糸切りを使用したとき

- ・ 試し縫いをする場合は、ご使用になる布を2枚重ねて行ってください。
- ・ 送り調節ダイヤルを希望する送り目の長さに合わせます。

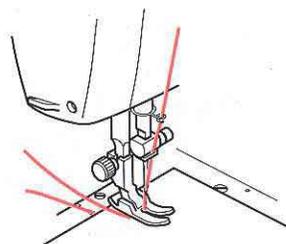


### ⚠ 注意

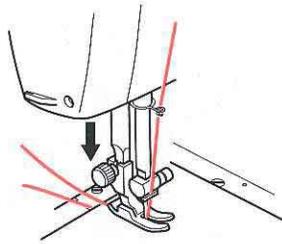
ケガ防止のために

縫っているときには、無理に布を引っ張ったり、押しつけないでください。

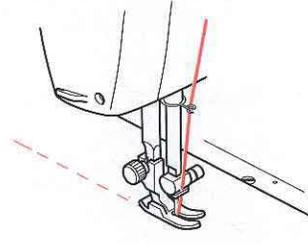
### 縫い始め



上糸と下糸を15cmほど引き出し、針を上げたまま布地を押えの下におきます。

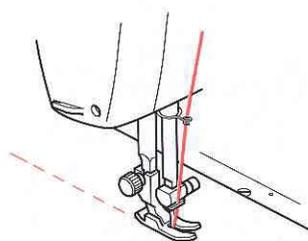


針を布地にさし、押えを下げ、コントローラーを軽く踏み、縫い始めます。

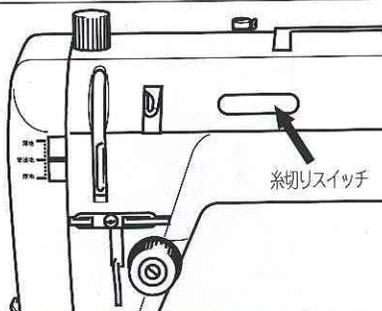


縫っている間は、手で布地を無理に引かないように、ガイドしながら縫います。

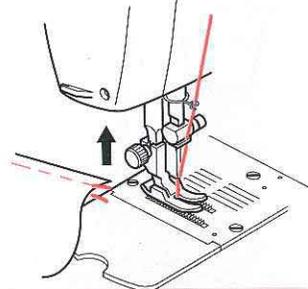
### 縫い終り



縫い終わってコントローラーから足を離すとミシンは、針が下がった位置で止まります。



糸切りスイッチを押して糸を切ります。糸を切ると、針は上がった位置で止まります。



押えを上げ、布地を後ろ側に引き出します。

### 自動糸切り後の縫い始め

自動糸切りをした後は針板上に下糸は出ませんが、上糸を押えの下にして縫い始めることができます。

上糸を押えの上にして縫いますと、上糸の端は裏側に出ます。袋物などのワッペンやタッグつけに利用すると便利です。

### 糸が切れなかったとき

糸切りスイッチを押しても糸が切れないときや、糸がからんだときは糸切りスイッチをもう一度押します。

注: 20番以上の太い糸や特殊な糸を使用している場合、糸が切れないときがあります。  
 面板の糸切り又ははさみで切ってください。

# 針と糸と布地の関係

きれいに縫うために、下表を参考にして布地に適した針と糸をお選びください。

なお、上糸と下糸は、できるだけ同じ種類のものをご使用ください。

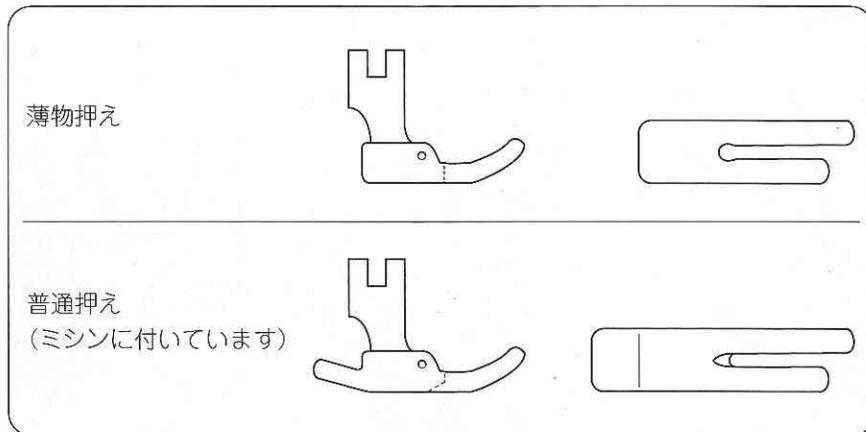
	布 地	糸の番号	針の番号	縫い目の長さ
極薄地	チュール, シホン, 薄レース, オーガンディー, 薄トリコット	綿 100番 絹 100番 化繊糸 80~100番	8~10番	1~1.5ミ
薄地	オーガンディー, ジャージ, ボイル, タフタ, 絹布	綿 80~100番 絹 60~80番 化繊糸 80~100番	8~10番	1.5~2ミ
普通地	ギンガム, ピケ, リンネル, さらさ木綿, ヘルベット, 薄コーデュロイ, サテン, ツィール, ビニール, 一般服地	綿 50~60番 絹 40~50番 化繊糸 50~60番	10~14番	1.5~4ミ
厚地	ギャバジン, ツィード, デニム, カーテン地, ビニール, コーデュロイ, ボンディングなど	綿 30~50番 絹 30~50番 化繊糸 50番	14~18番	2~6ミ
化繊地や伸縮性の生地	ダブルニット, 合わせニット, ナイロン, トリコット, スパンデックス, ジャージなど	綿 40~60番 絹 40~60番 ニット用糸	10~14番 化繊用針	1.5~4ミ
一般——— 装飾用直線ステッチ		綿, 絹, 化繊糸 20~40番	14~18番	2~6ミ

## ⚠ 注意

ケガ防止のために

針は、シンガー職業用ミシン針(N1515-01)とご指定の上、お買い求めください。

## 押えの比較



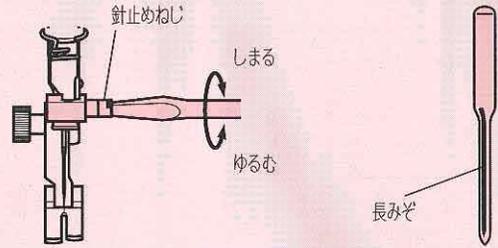
# 針の取りかえ方

**△ 注意**

ケガ防止のために

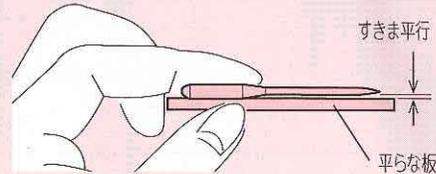
安全のため、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

- 針をいちばん上まで上げ、針止めねじをゆるめて、針を取りはずします。
- 新しい針の長みぞを左側に向け、いちばん奥までさし込み、針止めねじを確実にしめてください。



## 正しい針の調べ方

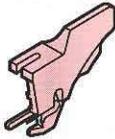
針の不良は、目とび、糸切れや布地をいためる原因になりますので、ときどき点検をしてください。曲がった針や、先がつぶれた針はご使用にならないでください。



# 糸通し器の使い方

糸通し器を使うと針穴への糸通しが楽にできます。

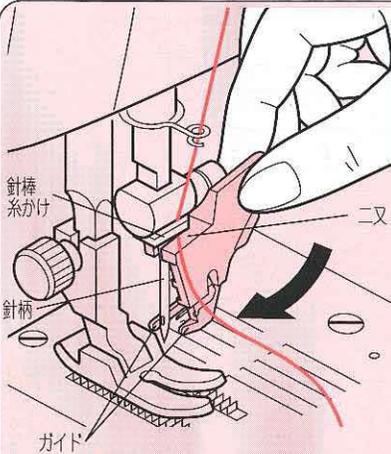
糸通し器



**△ 注意**

ケガ防止のために

糸を通すときは、必ず電源スイッチを切ってから、行ってください。

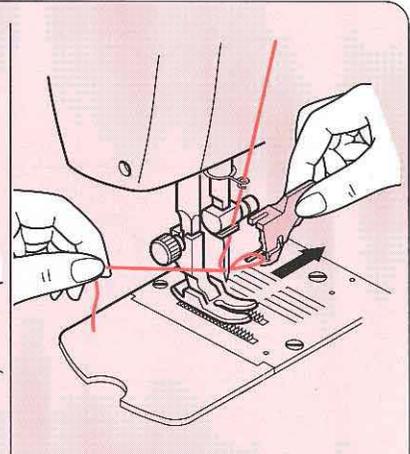


1. 押えを下げ、はずみ車を回して針を一番上まで上げます。糸通し器の二又の上端部を針棒糸かけに当てながら針柄に差し込みます。前後のガイドで針先をはさみながらフックを針穴に差し込みます。

※糸は、糸通し器の手前に引き寄せておいてください。



2. 糸を補助ばねにかけてからフックにかけます。



3. 糸端を軽く持ちながら糸通し器を引き戻します。

糸通し器で通すことのできない針と糸の番手の関係

針の番手	10番	11番	14番	16番
糸の番手	30番	30番	30番	30番、20番

※9番以下の針は、糸通し器はご使用できません。

# いろいろな縫い方

## ⚠ 注意

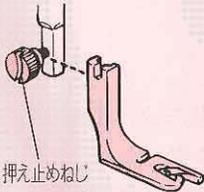
ケガ防止のために

押えを取りかえるときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

### 三つ巻き縫い

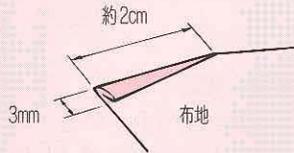
ハンカチの縁やワイシャツ、ブラウスのすそなど縫い代を三つ巻きにして布はしを始末する縫い方です。

三つ巻き押えを取りつけます。



押え止めねじ

1. 布地のはしを2度折りまげます。

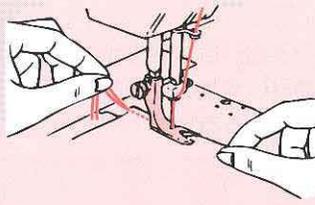


3mm

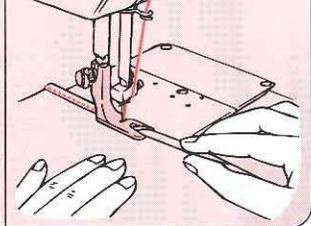
約2cm

布地

2. 折りまげた部分に針を刺し、押えを下げて上糸と下糸を向こうへひっぱりながら数針縫います。



3. 折りまげた部分の布地を、押えの渦の中に巻きこむようにさしこみながら、まっすぐ縫います。

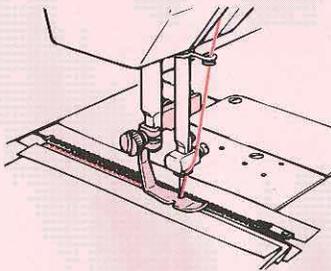


## ⚠ 注意

ケガ防止のために

### ファスナーつけ

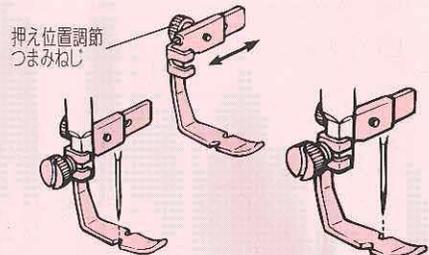
針がファスナー押えに当たると危険です。必ずファスナー押えに針先が当たらないよう確認して、つまみねじをしめてください。



押え棒

押え止めねじ

ファスナー押えは、押え棒の向こう側から取りつけます。



押え位置調節つまみねじ

右側を縫うとき

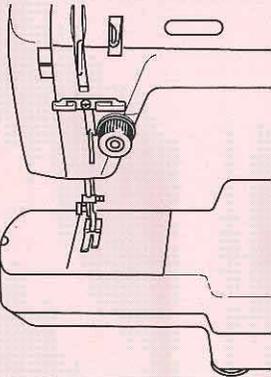
左側を縫うとき

・ファスナーの右側を縫うときは、押えを右に動かし、左側を縫うときは、押えを左に動かします。

フリーアーム縫い 補助テーブルを取り外すとフリーアーム縫いができます。

袖つけやズボン、袋などの筒状のものを縫うときに布地の取扱が簡単になり大変便利です。

補助テーブルを取りはずします。

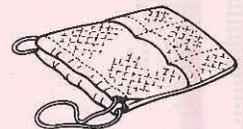
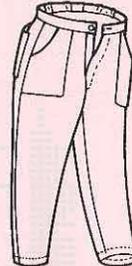
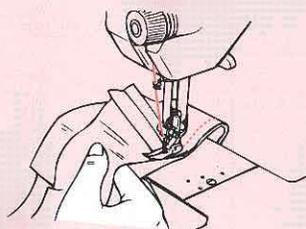


フリーアーム縫いはこんなところにご利用ください。

袖つけに……

ズボンの裾に……

袋物に……



・補助テーブルの取り付け、取りはずしは、2ページをご参照ください。

# 差動送り縫い(SuperUTT)

差動送り縫いは、後ろの送り歯に対して前の送り歯の送り量を変えることで、布地を伸ばしたり縮めたりしながら縫う方法です。

この差動送りを利用すると普通のミシンで縫うと縫いずれや縫い縮みが発生しやすい生地ストレッチ縫いや、ギャザリング、いせ込み縫いなどプロフェッショナルなソーイングができます。

- 差動送りを利用するとき、押えは差動押えをご使用ください。
- スピードは必ず中速以下でご使用ください。

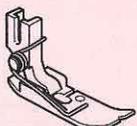
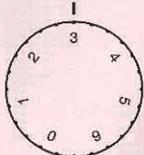
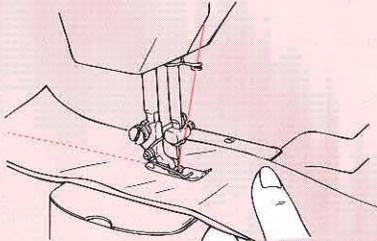
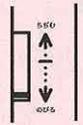
## ⚠注意

ケガ防止のために

押えを取りかえるときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

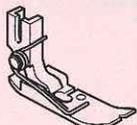
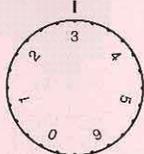
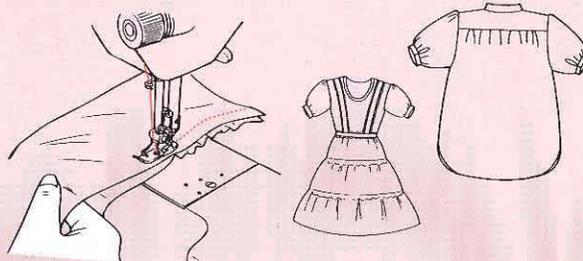
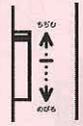
**ストレッチ縫い** ストレッチ縫いはつぎのような生地の縫製に最適です。

- ・縫い縮みしやすい薄い布地・・・ ジョーゼット、チュール、サテン、ボイル など
- ・伸縮性のある布地・・・ ニット、ジャージ、トリコット など

<p>ミシンの合わせ方 使用する押え： 差動押え</p> 	<p>送り調節ダイヤル：2～3</p> 	<p>縫い方 布地の前後を軽く引っ張りながら縫ってください。</p> 
<p>押え圧力：差動</p> 	<p>差動送りダイヤル：のびる</p> 	

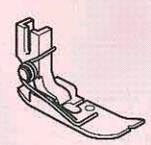
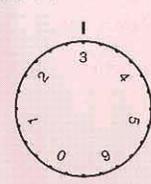
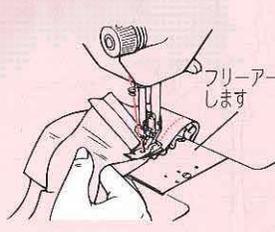
## ギャザリング

2枚の布地をいっしょに縫いながら下の布地にギャザーをだすことができますので、レースやテープの飾り縫い、袖口、襟のレース付、ヨークやティアードスカートなどの切りかえ縫いに大変便利です。

<p>ミシンの合わせ方 使用する押え： 差動押え</p> 	<p>送り調節ダイヤル：3～4</p> 	<p>縫い方 ギャザーを寄せる布を下にして布地を引きすぎないように軽く押えながら布を送ってください。 (より縮めたい場合には別売りのセパレーターをご利用ください)</p> 
<p>押え圧力：差動</p> 	<p>差動送りダイヤル：ちぢむ</p> 	

## いせ込み縫い

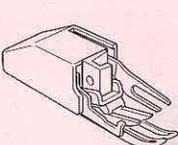
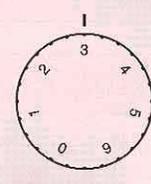
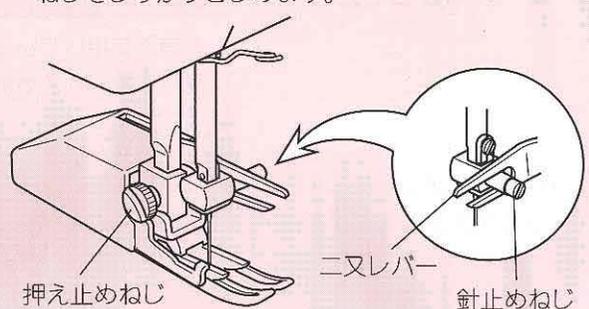
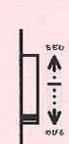
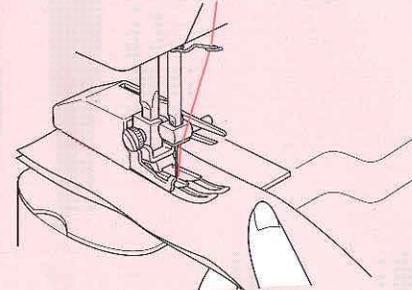
袖つけ、前後肩の縫い合わせ、タイトスリーブの袖下縫い等立体感を出したい箇所の縫製に必要ないせ込み縫いに大変便利です。

<p>ミシンの合わせ方 使用する押え： 差動押え</p> 	<p>送り調節ダイヤル：3～4</p> 	<p>縫い方 ぐし縫いはせずに、縫い合わせる布地の端や中間の合印にピンを打ち、布地の間に指をいれて上の布地をかるく押えながら縫います。</p>  <p>いせ込み使用例 (肩) 後身ごろ 前身ごろ (袖山) (ひじ)</p>
<p>押え圧力：差動</p> 	<p>差動送りダイヤル：ちぢむ</p> 	

## 上送り押えの使い方 (品番 375436)

縫いずれが起きやすい毛足のある布地や、柄合わせがしにくいときに利用します。  
次のような布地にお使いください。

- ・ベルベットやコーデュロイ
- ・パイル地やけば立った布地
- ・チェック柄やストライプ柄
- ・ビニールレザーなどすべりにくい布地

<p>ミシンの合わせ方 使用する押え： 上送り押え</p> 	<p>送り調節ダイヤル：3～4</p> 	<p>上送り押えの取り付け方 ●押え止めねじをはずし、押えを取りはずします。 ●上送り押えのホルダー部を押え棒に取りつけながら二又レバー部分を針止めねじにかみ合わせ、押え止めねじをしっかりとしめます。</p>  <p>押え止めねじ      二又レバー      針止めねじ</p>
<p>縫いずれを防ぐとき (ベルベットやコーデュロイなど縫いずれが起きやすい布地やチェック柄やストライプ柄など柄合わせがしにくいとき)</p> <p>押え圧力：差動</p> 	<p>差動送りダイヤル：のびる</p> 	
<p>ビニールレザーなど滑りにくい生地を縫うとき</p> <p>押え圧力：普通地</p> 	<p>差動送りダイヤル：センターマーク</p> 	<p>縫い方 布地を軽く押えながら縫います。</p> 

# ミシンのお手入れ

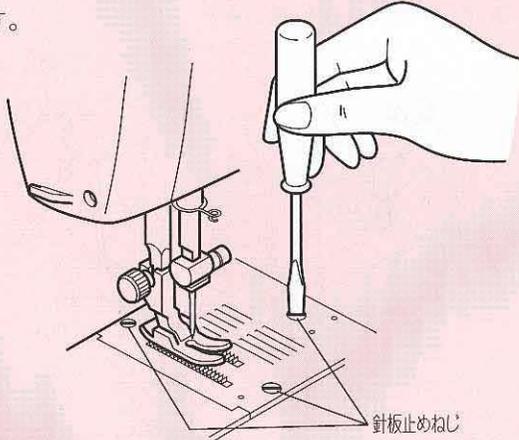
**警告**

ケガ防止のために

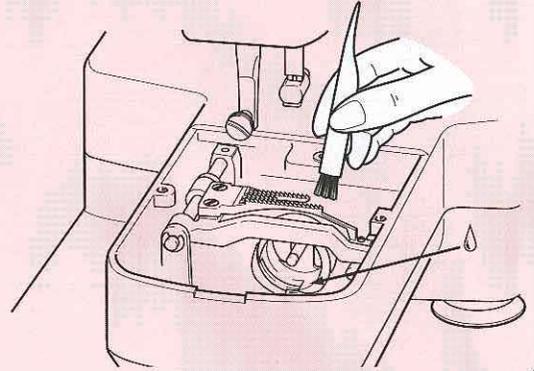
お手入れの際は、必ず電源プラグを抜いてください。

## かまと送り歯の掃除

針、押えを取りはずしてください。  
針板止めねじをゆるめ、針板・すべり板を取りはずします。

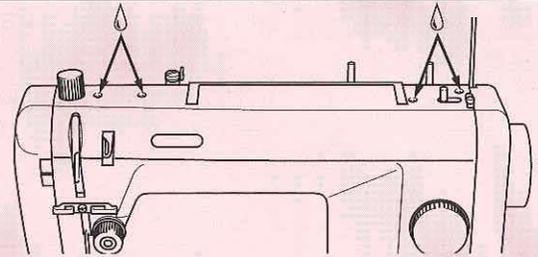


付属のミシンブラシで糸くず、布くずで汚れた送り歯やかまの回りを掃除してください。  
掃除が終わったら、かまに注油します。



## 注油

ミシン内部への注油は特別には必要ありませんが、長時間使用したあとなどには、付属のミシン油を矢印の箇所に2～3滴注油して下さい。注油箇所のまわりについた油は、布できれいにふき取して下さい。



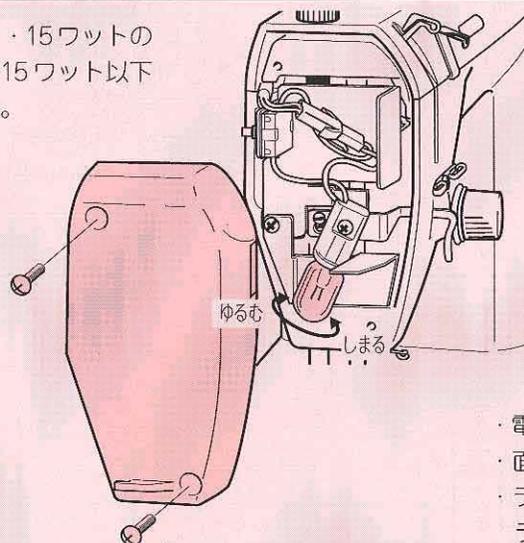
# ランプの交換

**注意**

ケガ防止のために

長時間使用していると、ランプが熱くなり、やけどをする恐れがあります。  
電球を取りかえる前に電源プラグを抜いて、ランプが十分冷えてから交換してください。

このミシンには100ボルト・15ワットのランプを使います。必ず、15ワット以下の電球を使用してください。



- ・電源プラグを抜いてください。
- ・面板を取りはずしてください。
- ・ランプを回して抜き取り、新しいランプを取りつけます。

# こんなときには

ミシンの調子が悪い場合は、まず次のことを確かめてください。

状態	原因	調整の仕方	参照ページ
布地を送らないのは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 押えの圧力が弱すぎる時</li> <li>・ 縫い目の長さが短すぎる時</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 押え圧力を強くします。</li> <li>・ 縫い目の長さを長くする。</li> </ul>	3 3
針が折れるのは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 針の取り付けが悪かったり、曲がった針を使用した時</li> <li>・ 布地を無理にひっぱった時</li> <li>・ 針止めねじがゆるんでいる時</li> <li>・ 布や糸に対して針が細い時</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 針を正しく取りつけるか、または新しい針と取りかえます。</li> <li>・ 手は布地が曲がらないよう導くために添えるだけ。</li> <li>・ ねじをしっかりと締めます。</li> <li>・ 布地にあった針を使用します。</li> </ul>	11 8 11 10
裁縫中に糸が切れるのは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 針の取り付けかたがちがっている時</li> <li>・ 糸の通し方がちがっている時</li> <li>・ 針が曲がっていたり、先端がつぶれている時</li> <li>・ 糸調子が強すぎる時</li> <li>・ 糸が必要以外のところからみついている時</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 針を正しく取りつけます。</li> <li>・ 糸を正しく通します。</li> <li>・ 新しい針と取りかえます。</li> <li>・ 上糸と下糸を正しく調整します。</li> <li>・ 糸を正しく通します。</li> </ul>	11 7 11 6 7
縫い目ごとぶのは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 針のむきがちがっている時</li> <li>・ 針が曲がっていたり、先端がつぶれている時</li> <li>・ 針が針棒の穴の奥までしっかりと入っていない時</li> <li>・ 糸の通し方がちがっている時</li> <li>・ 家庭用の針を使用した時</li> <li>・ 押えの圧力が弱い時</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 針を正しく取りつけます。</li> <li>・ 新しい針と取りかえます。</li> <li>・ 針をしっかり取りつけます。</li> <li>・ 糸を正しく通します。</li> <li>・ シンガー Cat.No.1515-01 を使用します。</li> <li>・ 押え圧力を強くします。</li> </ul>	11 11 11 7 3
縫い目の調子が悪いのは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 糸の通し方がちがっている時</li> <li>・ 糸調子が合っていない時</li> <li>・ 針、糸、布地が合っていない時</li> <li>・ 差動送りダイヤルが適切な位置にセットされていない時</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 糸を正しく通します。</li> <li>・ 上糸と下糸を正しく調整します。</li> <li>・ 布地、針、糸の組み合わせをよい条件に合わせます。</li> <li>・ 差動送りダイヤルを適切な位置に合わせます。</li> </ul>	7 6 10 13
普通縫いで布地が縮むのは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 糸調子が強すぎる時</li> <li>・ 糸の通し方がちがっていたり、必要以外のところからみついている時</li> <li>・ 針、糸、布地が合っていない時</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上糸と下糸を正しく調整します。</li> <li>・ 糸を正しく通します。</li> <li>・ 布地、針、糸の組み合わせをよい条件に合わせます。</li> </ul>	6 7 10
ミシンがまわらないのは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電源プラグがコンセントからはずれている時</li> <li>・ 電源スイッチが入っていない時</li> <li>・ コントローラープラグがミシンの接続穴にきちんと入っていない時</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電源プラグをコンセントに差し込みます。</li> <li>・ 電源スイッチを入れます。</li> <li>・ 正しくセットします。</li> </ul>	4 4 4
自動糸切り装置で糸が切れないのは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 針が曲がっている時</li> <li>・ 針の取り付けがまちがっている時</li> <li>・ 正しい針を使っていない時</li> <li>・ 針板の下にごみがたまっている時</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新しい針を取りつけます。</li> <li>・ 正しく取りつけます。</li> <li>・ 針、糸、布の組み合わせ参照。</li> <li>・ 針板をはずし掃除します。</li> </ul>	11 11 10 15

このページに記載されている項目以外の不調、または部品の交換、電気系統の故障の修理サービスは、ご購入店または「お客様相談係」(別掲)におたずねください。

# シンガー純正部品のご案内

プレミアム 103 専用部品(別売り)をご使用いただきますと、特殊な布地の縫製や、特殊な縫い方をを行ったとき縫製品の仕上がりが、一層美しくでき上がります。

お求めは、ご購入店またはシンガーお客様相談係へどうぞ！

ニット、化繊針 Cat. No.1515-06

伸縮性の布地を縫うとき目とびを防ぎます。

レザー針 Cat. No.1515-71

皮革、ナイロンを縫うときにご利用ください。



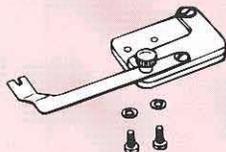
テフロン押え (品番 541585-001)

滑りにくい素材や、縫いずれしやすい布地に効果的です。



セパレーター (品番 375664)

ギャザーをより出すためにご利用ください。



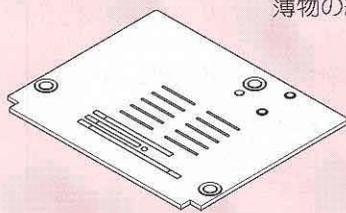
コンシールファスナー付け押え (品番 375465)

スカートやワンピースの脇あきや衣服の前あきなどコンシールファスナーの縫製にご利用ください。



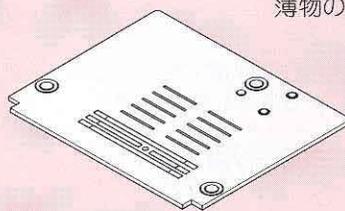
針板 (品番 552194)(UTT 用)

薄物の縫製に



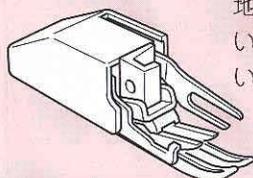
針板 (品番 552193)(SuperUTT 用)

薄物の縫製に



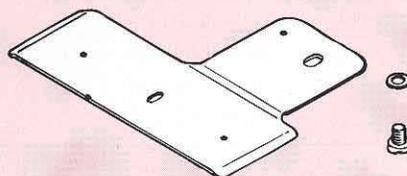
上送り押え (品番 374436)  
(SuperUTT では付属しています)

縫いずれが起きやすい布地や、柄合わせがしにくいときにご利用ください。



針板カバー (品番 415774)

市販のボタンホーラーを使用するときにご利用ください。







## 修理サービス要領

### ●修理サービスのご相談

1. このミシンのご購入者には、ご購入日から1年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をよくお確かめの上、大切に保存してください。
2. 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。
3. 修理サービスについてお問い合わせやご不審のある場合は、別掲の各地区にある「お客様相談係」宛お申し越し下さい。

### ●修理部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、ご購入の日から通常8年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できるような体制を整えております。

### ●無料修理保証期間後の修理サービス

1. 使用の手びきに基づいて正しい使用とお手入れがされていれば、無料保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料にて修理サービスをいたします。ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。
  - イ. 保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
  - ロ. 浸水、冠水、火災など天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
  - ハ. ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
  - ニ. ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
  - ホ. 無理なご使用により不調、故障または損傷したとき。
2. 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は、修理によってもとどおりに修復できないことがあります。
3. 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料の合計額となります。

140年以上も家庭用ミシンを作り続けてきたシンガーは、迅速で正しいサービスをモットーとして、全世界のご家庭にお届けいたしております。

**SINGER®**  
シンガーミン

® は THE SINGER COMPANY の登録商標です

Part No.378898-001(Rev.3)(898)